

日本基督教団
柿ノ木坂教会

牧 師 渡邊 義彦
協力牧師 松下 恭規

教 会 報

179号 2017年 1月 29日

〒152-0022

東京都目黒区柿の木坂

1-31-19

電話：03-3717-3870

Fax：03-3717-3916

巻頭言

「マリアの決意」

——ルカによる福音書第1章 38節——

牧師 渡邊 義彦



マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」
(新共同訳聖書)

マリアが救い主を産むと天使から告げられる受胎告知と平行してもうひとりの幼子の誕生物語がルカ福音書には記されています。のちに洗礼者と呼ばれるようになるヨハネの誕生物語です。救い主キリストの誕生物語と平行して、ヨハネ誕生の物語が進んでゆくのです。ヨハネの両親、父ザカリア、母エリサベトは、共に、既に大変年を取っていました。彼らは、これまで子供を与えられずに暮らしてきて、もう子供を授かることはないだろう、とあきらめていました。ところが、既に、おじいさん、おばあさんと呼ばれる年齢になって、はじめての子ヨハネを授かります。既におばあさんと呼ばれるエリサベトが懐妊したことがわかって、半年後、今度は、マリアが、あなたは救い主を産むことになる、と天使ガブリエルから告げられます。

マリアは、エリサベトとは全く反対に、まだ夫となるヨセフと婚約をただけで結婚もしていないのに、子供を授かると予告されるのです。聖書には「どうしてそんなことがあ

り得ましょう。わたしは男の人を知りませんのに」と、実に淡々と、そして慎ましやかに書かれています。マリアの動揺はとてもし大きかったと思います。「おめでとう」と言われても、その挨拶はいったい何のことかと考え込んでしまうほどに戸惑いは大きかったと思います。マリアも、ヨセフも、王様の家系、王家の生まれでも何でもありません。ヨセフは家を建てることを生業としていましたし、マリアも慎ましやかな、平凡な家庭に育った娘さんだったことでしょう。

しかし、天使ガブリエルは、生まれてくる子は「偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない」と、想像もつかないほどに大きなことを告げるのです。もしかすると、生まれてくる子は大きな働きをする子になるのかもしれないほどのことは思ったかもしれませんが、しかし、あまりにガブリエルの告げることは大き過ぎました。日常を平凡に暮らす民には理解を越えたことでした。しかも、マリアが最後に信仰によって、つまり、人間の経験や知恵の及ぶ範囲を超え

てしまっている出来事として、信仰によって受け止めねばならなかったのが生まれてくる子は聖霊によって生まれてくる子であり、神の子であるということです。結婚というわたしたちの経験や営みが、この子を産ませるのではなく、聖霊によって身ごもるといふ、わたしたちの理解をまったく越えてしまっている出来事です。

主イエスが成人され、神の国をたくさんの人に宣べ伝えてゆく中で、主がお伝えになることを喜び受け入れた人たちがたくさん生まれましたが、同時に、主イエスがお語りになることに反対する人たちもたくさん生じました。キリストに反対する人たちの中には、お前は姦淫によって、結婚外の関係によって生まれた子供ではないかと主イエスを揶揄する人たちもいました。聖霊によってマリアが身ごもるといふ人間の知恵や経験では決してとらえることのできない出来事を、人間の理解できるところに押し込めようとした間違いがここにはあります。

マリアは、人間としても、女性としても、年齢としても受け入れ難い、救い主を聖霊によって身ごもることを、信仰によって受け入れキリストの母となります。聖書は出来事の移り行く様だけを記すのみで、マリアの心の動きや、きっとあったであろう苦悩や葛藤などは記していません。マリアの内面には大きな葛藤があったとしても、しかし、聖書からは、彼女が信仰をもって、自分の身に起こる神の出来事を信じ受け止める決心をしたことはわかるのです。「わたしは、主のはしためです。お言葉どおり、この身になりますように」と、天使ガブリエルに答えるマリアの言葉は、マリアの信仰と決意を言い表しています。

マリアは、先に子を宿していたエリサベト、洗礼者ヨハネの母となる彼女のもとを訪ね、老齢の者が子を宿す、結婚を前にした者が子を授かる、という不思議を経験した者同士として、互いを慰め励まし合います。

そこには、救い主の母となることに微塵の疑いも、動揺も見られない、わたしたちの不信仰を爽快に蹴散らすかのような、マリアの信仰と、神への賛美が力強く歌われています。マリアの賛歌、マグニフィカートと呼ばれる賛美です。

わたしの魂は主をあがめ、／わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。／身分の低い、この主のはしためにも／目を留めてくださったからです。／今から後、いつの世の人も／わたしを幸いな人と言うでしょう、／力ある方が、／わたしに偉大なことをなさいましたから。／その御名は尊く、／その憐れみは代々限りなく、／主を畏れる人に及びます。／主はその腕で力を振るい、／思い上がる者を打ち散らし、／権力ある者をその座から引き降ろし、／身分の低い者を高く上げ、／飢えた人を良い物で満たし、／富める者を空腹のまま追い返されます。／その僕イスラエルを受け入れて、／憐れみをお忘れになりません、／わたしたちの先祖におっしゃったとおり、アブラハムとその子孫に対してとこしえに。

最初のクリスマス、御子が来てくださったことを喜び祝った人たちの信仰に教えられながら、賛美を合わせたい、と願います。そして、キリストが救い主としてお生まれくださった喜びの知らせを、ひとりでも多くの人たちに届けられるよう、祈りを合わせたい、と思えます。

☆☆☆教会の行事☆☆☆

◆いままであったこと

- ◇11月20日(日) 9:00 教会学校収穫感謝日礼拝
- ◇11月27日(日) 待降節(アドベント)に入る
- ◇12月7日(水) 13:30~15:30 新生会・いずみ会アドベントの集い
- ◇12月9日(金) 10:00~12:00 ベテル幼稚園保護者のためのクリスマス礼拝
- ◇12月15日(木) 10:00~11:00 ベテル幼稚園クリスマス礼拝(ページェント)
- ◇12月24日(土) 17:00~18:30 聖夜礼拝



聖夜礼拝

中上: 礼拝で説教をする渡邊牧師
 左と右上: 照明を落し、青年会メンバーが配ったキャンドルの灯りで、
 クリスマスの讃美歌をみんなで歌う

- ◇12月25日(日) 10:30 降誕祭礼拝、13:00 愛餐会、15:30 教会学校クリスマス礼拝

クリスマス礼拝ページェント リハーサル風景

右: 星を指す東の博士
 その右: 天使たち、ヨセフとマリア、
 飼い葉桶のイエス、羊飼たち、
 3人の博士たち
 下: 奏楽者、スタッフも勢揃い



◆これからの予定

- ◇3月1日(水) 灰の水曜日、受難節に入る。
- ◇4月9日(日) 棕櫚の主日、受難週に入る。
- ◇4月13日(木) 洗足木曜日
- ◇4月14日(金) 受苦日
- ◇4月16日(日) 復活日礼拝

集会出席統計(月平均人数)

	2016年	
	11月	12月
主日礼拝	90.0	106.3
聖書と祈り会	16.3	11.0
教会学校*	97.5	129.0

*保護者、教師を含む

(第1主日開催)	11月6日	12月4日
聖餐夕礼拝	11	11

礼拝当番表・当番カードの作成（礼拝委員会）

上田 昌紀

礼拝当番表はこうして作られる

主日礼拝は1年間に52回(今年は53回)行われ、聖餐は15回(第1主日+復活日+聖霊降臨日+降誕祭)、聖餐夕礼拝は12回執り行われます。

これらの礼拝を守るために実に多くの教会員の方々に様々な役割のご奉仕をお願いしています。礼拝に直接係る役割と人数を列記してみます。司式(1)、奏楽(1)、受付(2)、会堂(2)、献金(6)、録音(1)、講壇生花(1) 合計14名。第1主日は更に配餐(7)、聖餐準備(2)、夕礼拝受付(1)、奏楽(1)が加わり合計25名となります。[礼拝説教をなさる渡邊牧師と松下牧師については、現在は礼拝当番表に説教者の欄が無いので、ここでは別カウントとさせていただきます]

さて、1年間52回の主日礼拝に延べ何名の教会員の方が奉仕してくださるのでしょうか、何と887名に上り1ヶ月平均74名となります。2ヶ月毎に発行される礼拝当番表には140余の当番の枠目があり、この枠目に教会員のお名前を記入する作業が礼拝委員会の仕事であります。

実際には、講壇の生花の当番は別の当番表を用いておられるので礼拝当番表には記載されませんが、説教題掲出、讃美歌練習、掃除当番などの役割を担当していただく日程を記載していますので、枠目の数は同じです。

それでは、夫々の当番(役割)を何方に担当していただいているかをご説明いたします。

司式：第1主日は渡邊牧師が担当され、その他の主日を現任の長老が順番に担当されます。

奏楽：石岡美典子姉、大谷多恵姉、清水ひとみ姉、渡辺久子姉の4名がローテーションを組んで担当されます。

受付：現任の長老1名と伝道委員(第1第3)・牧会委員(第2第4)から1名のペアが担当されます。第5主日の時は飯島久美姉か井澤須美子姉のどちらかに担当をお願いしています。

会堂：現任の長老1名と礼拝委員1名のペアが担当されます。

献金：現任の長老、奏楽者、礼拝委員を除く現住陪餐会員の内、献金の奉仕を引き受けてくださる方が現在72名いらっしゃいます。

毎週6名ずつ担当していただいていますので、3ヶ月に1回の割合で当番が回ってくるようになります。

録音：礼拝委員が交代で担当いたしますが、井澤浩一兄と川嶋章弘神学生に助っ人としてお願いする場合があります。

配餐：現任の長老12名と元長老の内、配餐の奉仕を引き受けてくださる方5名の計17名で1回7名ずつのローテーションを組んで担当していただいています。配餐当番は長老若しくは長老経験者が務める決まりがあるため、当日欠員が出た場合の補充を含めて当番者を7名に設定しています。

聖餐準備：冒頭に述べた15回の主日礼拝の他に、洗足木曜日礼拝、教会総会、高齢の方に配慮した礼拝において聖餐が執り行われます。更に聖餐夕礼拝の後片付けも含めて手間のかかる作業が多い聖餐準備の仕事を、上田愛枝、大橋明子、小椿尚子、鶴田真希、中川尚子、中島眞理、西森昭子、吉岡晶子、美根明子の9姉妹が2名ペアの当番表を組んで担当されます。美根明子姉が取り纏め役を務めておられます。

夕礼拝受付：現任の長老が担当されます。

夕礼拝奏楽：石岡美典子姉、松尾貴子姉、棟居湘子姉、渡辺久子姉の4名が当番表により担当されます。

讃美歌練習：毎月の最終主日の礼拝終了時に行われます讃美歌練習の指導を、井澤浩一兄と榊田恒兄に交代でお願いしています。

説教題掲出：主日礼拝の説教題を教会玄関の掲示板(2箇所)に掲出する作業を、大田ひろ子姉、成松三千子姉、中嶋俊子姉、榊田恒兄の4名が

1ヶ月単位で順番に担当されます。

掃除当番：A B C の3グループが毎月第1と第3土曜日を順番に担当し、その他の土曜日は業者(目黒区シルバー人材センター)が担当するローテーションが組まれています。各グループには6~7名の奉仕者がおられますが、名簿は割愛させていただきました。

いよいよ140余の柁目にお名前を記入する作業=礼拝当番表を作成する=に当たり配慮しなければならない事柄を考えました。

- * 礼拝がきちんと執り行われるために、役割の奉仕をお願いする立場であること。
- * 奉仕をしてくださる方が自信を持って役割を果たせるように、夫々の立場・都合を考慮すること。

配慮すべき具体的事項

- ① 一人の方に当番が集中しない様に、例えば3週連続して当番に当たらない様に。
- ② 家族が二人以上同じ日に当番にならない様に。(但し、家族が同日に当番をした方が都合の良い方もおられるので確認が必要)
- ③ 体力の負担が多い場所(例えば献金1・5・6番)に高齢の方等を当てない。
- ④ 復活日、聖霊降臨日、降誕祭の礼拝に、聖歌隊・トーンチャイムの奉唱がある場合は当番から外す必要がある。
- ⑤ 献金当番では、なるべく普段着席しておられるエリアの当番になる様に工夫する。
- ⑥ 季節によって礼拝に出席できない事情がある方への配慮を忘れない様に。

こうしていろいろな検討の結果を反映して全ての柁目にお名前を記入したものが礼拝当番表の原案として礼拝委員会に提出されます。

チェックの結果、問題が出ますと修正をして、文字の校正を行い漸く印刷原稿が完成します。当番表の枠組み作りを始めてから2週間程で、翌月から2ヶ月分の礼拝当番表を皆様のお手元にお届けすることになります。

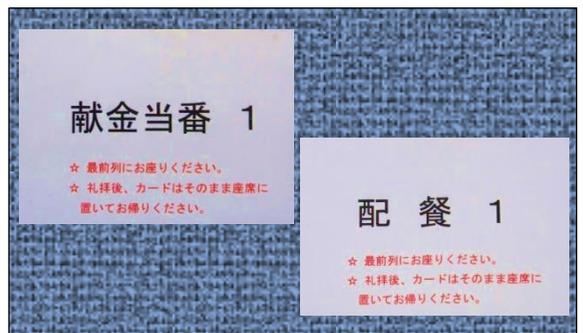
振り返って見ますと、主日礼拝が如何に多くの教会員の方々の奉仕に支えられて守られているのかを改めて認識し感謝の気持ちで一杯です。当番担当の奉仕をしてくださる皆様には心から御礼申し上げる次第です。

当番カードの小さな物語

月の最初の日曜日朝10時ごろ、教会玄関の受付カウンターには、献金当番1番~6番の6枚と配餐当番1番~6番に配餐補を加えた7枚、計13枚の当番カードが行儀よく並んで、カードに書かれている当番者の来会を待っています。

(問)ところで、この当番カードに当番の方の名前を記入してきちんと揃えると言うお仕事は何時、何方がなさったのでしょうか。

(答)それは、先週の(つまり先月最後の)主日礼拝の会堂当番のお仕事だったのです。では、当番カードの小さな物語をご紹介します。



第1話：当番者の名前を週報係が記入した。

2011年5月までの礼拝当番表には週報係と言う当番がありました。活動日は土曜日で、役割は週報配布(金曜日の夕方には週報の印刷が出来上がっていた)と受付準備(礼拝当番表を見て献金・配餐当番の名前を付箋に記入して当番カードに貼り、玄関の受付カウンターに置く、現在の会堂当番と同じ作業)でした。同年6月より週報の印刷から配布まで全てを渡邊牧師が引き受けてくださることになり、週報係を廃止して、受付準備の役割を会堂当番に移管することで、当番者の削減を図りました。

第2話：献金・配餐当番が5人体制だった。

礼拝当番をお願いする回数を減らし、教会員の負担を少しでも軽減しようとの趣旨で、2009年8月から受付3→2、献金・配餐6→5に当番者人数を削減したのですが、献金5番の受持ちエリアが複雑になり、負担が大きくなったため、2015年2月から献金・配餐当番を再び6人体制に戻して、奉仕をしてくださる方の負担軽減を図りました。

「常に心に刻まれている聖句」

林 華子

ローマの信徒への手紙 8章 28節

『神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。』

この聖句は、故林宏と私が、20才代の時に信濃町教会の青年会での交わりを深めていく折に、期せずしてお互いの暗唱聖句が一致した時から2人で定め、今日まで1日として忘却したことはありません。宏は71才4ヶ月で急逝帰天いたしました。その突然の悲しい現実も与えられた盃として飲み、徐々に平穩に復帰していくように努力してきました。今でもここ私の身边に常に飾ってある一對の大きな鷲の木彫りのブックエンドがあります。この聖句の全文が英文の手彫りで細く記述された宏よりの贈り物です。1956・4・20と明記もあります。私の27才の誕生日祝いにと渡されました。このような見事なギフトを手にして私は宏の信仰と熱意に驚嘆しました。翌1957年4月に正式に婚約して、翌年1958年3月に結婚いたしました。

私は独居生活になって、しみじみと何故20才代に同じ聖句を愛したかと、深く考えました。それは共有した終戦直後に全てが混乱と欠乏の中で若き日の学生時代を過ごしたことでありましょう。宏は教養学部では理2に学び将来は医者になる目標でした。しかし義父が海軍将校で、その暮らしが終戦で180度転回しました。長男として家族のことを考えて、本郷へ進む段階で文転して経済学部へ出直しました。その直後に友人達と「自分の胸のレントゲン写真を1枚とっておこう。」という軽い気持ちで検診した結果が、自分だけ肺結核が発見されました。希望の挫折！休学、国立中野療養所へという、重ねての試練でした。

しかし、そこに神様との出会いがありました。担当医の故新海明彦先生が、信濃町教会の長老であられたご縁で、病院内の求道者会に入れて頂き、信仰へと導かれて病床受洗という経路で、神様の計り知れぬご計画を賜りました。

私は東京生まれで15才迄は東芝の技師である父の4人目の末子として育ちました。その父は大正末期に北米のGEに長期出張して帰国後、欧米かぶれでピアノ好き、姉と私に個人レッスンを受けさせてくれました。私は当時今の芸高のような「上野児童音楽学園」に、小学4年から週に2回課外授業として5年間通いました。そこではピアノ個人教授の他に、歌唱指導の中で聴音・楽典の初歩を、その時代の新々若手の松田トシ・酒井弘・藤井典明の諸先生方に学ぶことが出来ました。しかし戦争も悪化し、その学園も昭和19年に閉鎖し毎晩の空襲に怯え、とうとう昭和20年4月15日に蒲田方面空爆の余波で、私の生家はピアノも全て焼失いたしました。家族は離散して母と私は母の出身地の京都へ、そこから西の網干という塩田と漁場の村へ逃避しました。8月の終戦後は龍野の山まで県立女子校へ通い、「転校生いじめ」も味わいました。翌1946年に卒業を前にして芸高との連絡も取れず、悶々と暮らす中でふと新聞記事に「神戸女学院音楽専門校」を目にして母と2人でモンペ姿で西宮市岡田山の輝くような校舎を訪れました。神様との出会いのNEWチャンスでした。その折に運に恵まれピアノ科主任の故広田美須々先生が優しく応対して下さいました。「上野音大は競い合う専門家ばかりですが、こちらはミッションスクールで和やかに音楽が学べます。幼い頃から始められた業ですから受験してご覧なさい。若し入学されたらば、今

は寮も満員ですから早目に予約されたらよろしいですよ。」と舎監の故松山初子先生にもご紹介下さいました。この広田先生との偶然的な出会いこそ私の生涯を定めた4年間の北寮生活による求道への道が備えられていた御恵みとなりました。松山先生は明治初期のキリスト者を父上とされ、京都の平安女学院で学ばれ献身なされた伝道者として、神戸女学院の北寮生を数多く受洗へと導かれました。「わたしは神様と結ばれてこんなに沢山の娘も与えられて」といつも素敵な笑顔で接して下さいました。ピアノ専門の広田先生が、昭和21年の暮の南海地震の折にお風邪を召しながら逃避されたのが原因で肺炎で急逝されました。3学年に進学しても広田先生の御指導は叶わなくなりました。私はその頃から松山先生の求道者会の方へ心が傾き、いつしか信仰への道に進んで参りました。1949年4月10日のイースターに西宮市甲東教会にて、学院長で牧師であられた、故畠中博先生より洗礼を授かりました。最高学年では北寮の宗教部長を任命されて、毎週2回の夕拝の時は、ガランガランとベルを鳴らし、或る時は司会を、或る時は奏楽を担当いたしました。入試の時には考えも及ばなかった自分自身を信じられない思いで4年間の北寮生活を卒業して東京へ戻りました。勿論両親の反対はなく、焼失した田園調布の隣の世田谷区東玉川町に転宅していた実家に住み、信濃町教会へと転会しました。早速に教会学校幼稚科教師と奏楽のご奉仕をさせていただいて感謝の日々でした。その時代の信濃町教会では、故福田正俊牧師の許で、後日経堂北教会牧師になられた故四竈揚兄はじめ10名位の神学生が在籍されて、長老方も勢揃いされた大変充実した大きな教会でした。そこへ将来の伴侶となる林宏が病氣復帰した姿で、新入会者として転入して参りました。この出会いがイエス様との出会いの次の、生涯の家族の絆の始まりでありました。

このように東京と神戸と離れた地に於いて宏と私は、困難辛苦の暮らしの中で、素晴ら

しい伝道に向き合う時代を生きたからこそ、『ローマの信徒への手紙8章28節』を、不思議に同一の思いで感受したのだと悟ります。20才代に決意した聖句が、思いがけなく私の心底深く、只今87才9ヶ月までも不変であり、長き支えとして、様々な人間的患難辛苦を通過させて頂けた“原動力である”と真に感謝の限りであります。夫も私もクリスチャンホーム育ちではありませんが、若き日に主と出会い自然な招きに素直に溶け込む御計画の成就でした。現今の孫達の世代を眺め世界状況に格段の差があります故に、私共はひたすらに、神様の御計画と選びを祈り求めたいと思います。その他の尽きぬ聖書の中では、旧約の創世記の中のアブラハムとイサクの物語、新約のルカによる福音書25章15節からの「放蕩息子のたとえ話」が、深い思いの中に収まっています。この2つは北寮4年間に幾度伺ったことでしょう。

柿ノ木坂教会へ転入させて頂き4半世紀が過ぎました。いずみ会委員・婦人会連合南支区委員・聖餐準備・家庭集会等のご奉仕をさせていただきました。牧師ご夫妻、長老方、会員信徒の皆様方から、優しいお交わりの中にある私は、心から嬉しく存じます。また美声でもないのに聖歌隊にも入れて戴き有難うございます。隊長の井澤浩一長老・榊田恒長老・石丸恵彦兄には、寛大に扱って頂き感謝しながら練習の一時を大切に存じます。過日“樾の木会“の折に榊田長老が述べられた「讚美の奉仕こそ神様への最高の献げもの。」とのお言葉が心に共鳴いたします。

最後に私の愛唱歌は幾多もありますが、その中から婚約の日にお仲人の故斎藤勇先生が選ばれた1954年版讚美歌の285番「主よみてもて」と定めております。今も毎朝必ず独居のマンションで、祈りの一時に大声で独唱しております。婚約から60年数えて2万2千回は歌詩を吟味しながら、心から歌います。召される折にも、よろしく願い申し上げたいと存じます。

今月のメッセージ

——ホームページ巻頭言 から——

ホームページには多くの情報が掲載されています。
ぜひご覧ください
<http://kakinokizaka-church.com>

あなたは人を塵に返し、「人の子よ、帰れ」と仰せになります。千年といえども御目には昨日が今日へと移る夜の一時にすぎません。

あなたは眠りの中に人を漂わせ朝が来れば、人は草のように移ろいます。

朝が来れば花を咲かせ、やがて移ろい夕べにはしおれ、枯れて行きます。

(新共同訳聖書・詩編第90編3～6節)

年末に教会の一人の姉妹が逝去し主の御もとに召されました。彼女は、12月初めに病床で洗礼を受けクリスチャンとなり、わたしたちの教会の会員となりました。そのときにはご自分の死についてひとつの覚悟を既に持っておいででした。葬儀は教会でと望まれ、また同時に洗礼を希望なさったのです。

彼女の受洗の望みは、しかし、60年も前に、キリスト教信仰によって建てられた学校、高校に過ごしたときに与えられていたことでした。バプテスト教会の信仰に基づいて建てられた学校でしたから、友人たちが、浸礼、全身を水に沈めて受ける洗礼を授けられてクリスチャンとなってゆくのに強い印象を持ったと言います。自分も洗礼を受けたいという、このときに与えられた思いを大切に、けれども最後の病床にあって、もうそれは無理かも

しれないとあきらめてもおられました。このような彼女の洗礼の願いを教会員であった義妹が教会へと伝えてくれて受洗へと至りました。

教会員としての生活は1ヶ月にも満たない短いものでした。けれども、その1ヶ月はキリストのものとした平安な日々であったと信じるものです。ベッドサイドで家族が朗読してくれる聖書に聞き祈りを学ぶ生活でした。

彼女の希望どおり教会礼拝堂での葬儀となりました。彼女の体は、そのときはじめて礼拝堂に運ばれました。生前にこの礼拝堂で礼拝を共に献げることはありませんでした。家族の出席はもちろん、かつての学友たちの出席がありました。彼女とは直接には話したことのない教会員たちの出席もありました。彼女の歩んできた人生をたどり、そこに現わされた神の救いの御業を覚える礼拝となりました。

時間の長短ではないのでしょうか。ここに同質の、同じ神の御業が現わされていること、このことが大切なことなのだと思います。

変わらぬ主の恵みのうちに新しい年も歩んでまいりたい、そう願います。

(牧師 渡邊 義彦)

——編集後記——

- ・ 昨年は12月24日(土)に聖夜礼拝、25日(日)に降誕日礼拝と、全く本来の暦通りでした。多くの会衆とともに祝福にみちた礼拝が持てたことを感謝いたします。
- ・ 礼拝委員会の報告にあるように礼拝当番表の作成など大変ご苦勞の多い作業です。主に捧げる礼拝を整えるためのご苦勞に頭が下がります。
- ・ 「私の聖句・私の讚美歌」。信仰者の交わりが本当に豊かなものであることを感じます。
- ・ 教会報へのご意見・ご感想をお寄せください。
(編集委員長 井澤浩一)

集会案内

主日礼拝 日曜日 午前10時30分
聖餐夕礼拝 第1日曜日 午後5時
入門講座 日曜日 午前9時30分
教会学校 日曜日 午前9時
(幼稚科、小学科、ジュニアチャーチ)
*ジュニアチャーチは中学生、高校生です。
聖書と祈り会 水曜日午前10時、午後7時30分

日本基督教団 柿ノ木坂教会
〒152-0022 東京都目黒区柿ノ木坂 1-31-19
電話 03-3717-3870 (教会・牧師館)
03-3723-3870 (ベテル幼稚園)
牧師 渡邊 義彦
協力牧師 松下 恭規